

兵庫県保険医協会

但馬支部ニュース

No.164

2020年12月5日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660
谷垣医院 TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

「健康と医療について語り合う会」を開催

「認知症」を正しく知る



千葉義幸先生（左）が手話通訳を介し、聴覚障害者ら37人に講演した

但馬支部は10月18日、豊岡市内で「健康と医療について語り合う会」を開催（兵庫県聴覚障害者協会・兵庫手話通訳問題研究会医療班が依頼団体）。千葉義幸先生（豊岡市：ちば内科・脳神経内科クリニック院長）が「認知症と物忘れ」をテーマに講演し、市民ら37人が参加した。千葉先生は「認知症は誰でもなりうる病気だが、生活習慣病の予防をすることが大切。たとえ認知症になっても人間らしく人生を送ることができる」とした（次号に参加者の感想を掲載予定）。

会員インタビュー「但馬の息吹」 ～黒瀬 博計先生（朝来市）の巻～ 「地域に根付き、患者さんに寄り添う医療」 目指して（後編）

但馬の地に根差して診療されている会員の先生へのインタビューコーナー「但馬の息吹」。黒瀬博計先生（朝来市和田山町竹田・はるかぜ診療所・2015年開業）の巻・後編を掲載する（聞き手は坂本健一先生〔朝来市和田山町東谷・さかもと医院〕）。

患者さんに寄り添う医療を

坂本 最終的には地域医療を選ばれましたね。

黒瀬 照来診療所時代を思い出すと、行政の方や診療所スタッフに恵まれて、社会のルールや地域のしきたり等を教えてもらいました。患者さんからも多くのことを学びました。その3年間の看取りも含めた訪問診療の経験は非常に貴重で、ずっと心に残っていたことが大きいですね。



訪問診療で患者に寄り添う黒瀬先生

ね。「地域に根付く、患者さんに寄り添う医療」が自分のしたいことだと、奇しくも後の都市部での病院勤務時代に気付いた部分がありました。幸いなことに内科と外科を両方やっていたので、つぶしも効きやすいかな…とも思いましたし。

坂本 但馬での原体験があって、その後のいろいろなご経験が活きて、この地へ戻ってこられたと。

プライマリケア医として

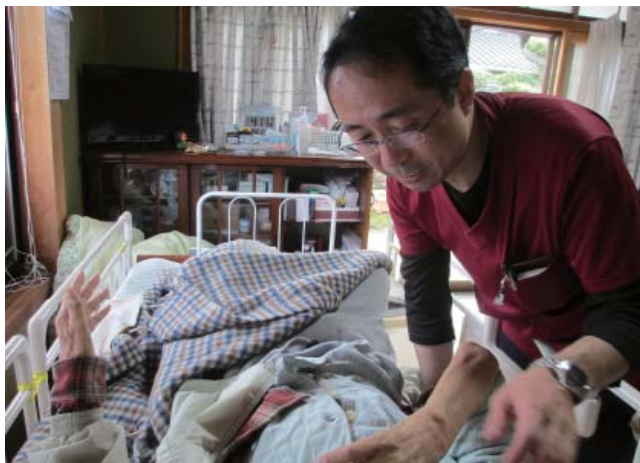
黒瀬 そうですね。子どものライフステージが一段落したこともあり「地域医療に戻りたいなあ」と思っていた折、大学の1年先輩の岡本秀樹先生、静子先生ご夫妻に声をかけていただき、2015年に、はるかぜ診療所の立ち上げに参画することになりました。ご夫妻がされている、そよかぜ診療所（朝来市山東町 / 2008年開設）に次ぐ2つ目の診療所です。

坂本 外来ではいろんな患者さんがみえるでしょう。

（2面からのつづき）

黒瀬 プライマリケア医として、基本的には何でも診るのが当院の“売り”かも知れませんが、数は多くはありませんが、皮膚科や小児科領域の診療もあります。患者さんには「ちょっとした困りごとの相談の窓口にもなりますよ」と言っていますよ。

坂本 外来はもとより、在宅診療に特に力をいれていらっしゃるんですよね。在宅の患者さんは現在何人くらいですか？



約80人の患者さんを3人の医師で訪問

黒瀬 そよかぜ、はるかぜ両方で、施設も含め80人ほどの患者さんを3人の医師と常勤看護師6人、非常勤2人で対応しています。

医師3人体制で在宅医療に取り組む

坂本 複数の医師が在宅患者さんを共同して診るためには、医師同士がお互いの患者さんをよく知っておく必要がありますよね。

黒瀬 その通りです。まず当然ですが、カンファレンスで「在宅で診ましょう」という合意がなければ在宅診療になりません。情報共有のためには、医師やスタッフ同士の意見のすり合わせが必須です。

坂本 見解の相違もあるでしょうが、逆に言うといろんな意見が聞けるということは、やり易い側面もありますね。

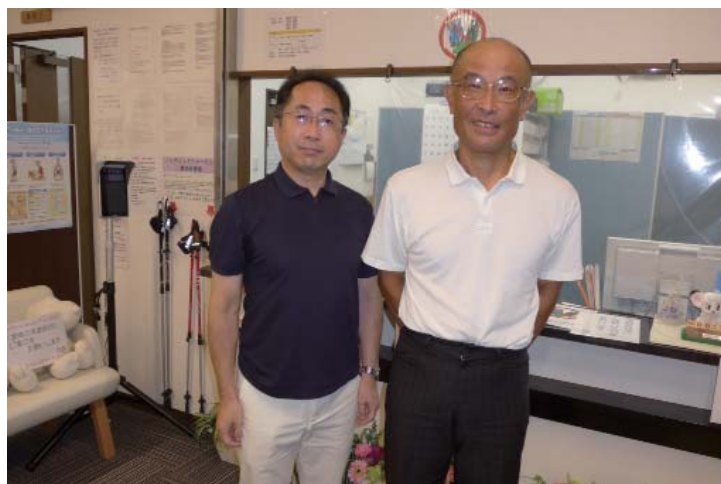
黒瀬 そこは1人でやっていた新温泉町時代等とちがって非常に有難いです。静子先生は放射線科なので画像は見てもらえますし、外科のことは秀樹先生にお伺いできます。私も手術後の経過について見当がつかますし、勤務医時代の蓄積が活かされます。3人の医師がそれぞれ技術や知見を持ち寄ることができることは大きな利点ですね。

坂本 それでも80人は多いですね。在宅での看取りはどのくらいありますか？

黒瀬 年に20～30人ですね。外来でみえていた患者さんが、通院も待ち時間もしんどくなり、在宅患者となって老衰で家で看取りに至る…というケースが多いです。外来でも患者さんの人となりや生き様に触れることは可能ですが、訪問診

（3面からのつづき）

療で最期まで見届けることで、より一層患者さんやご家族と深いところでつながることができると思います。そうした意味では先ほどの「地域に根付く、患者さんに寄り添う医療」が追求できているかな…と感じています。



自治医大の先輩である坂本健一先生（右）と

但馬の地に根差して

坂本 ご自分が目指してこられた医療を実現されているのは素晴らしいですね。逆に共同経営・診療のご苦労もありますか？

黒瀬 人材確保でしょうか。「はるかぜ」「そよかぜ」の双方がうまく回っているときはいいですが、どちらか一方でも退職者や休職者が出ると、人員をクロスオーバーさせて運営しているだけに、人のやりくりをしないとイケない。複数の医師やスタッフが乗り合いでしている長所と短所はありますね。将来的には、医師1人で在宅診療をしている先生も（経営体を越えて）地域で相互にフォローできる体制を目指したいですね。私は当院で但馬地方は3カ所目ですが、但馬の住民の方は医者を大事にしてくれるので恵まれているな…と心から思います。

坂本 黒瀬先生のお人柄と、診療や地域に対する思いをお伺いできました。素晴らしいお話をありがとうございました。

「みんなでストップ！負担増」署名にご協力を

協会では、政府が進める医療や介護の患者負担増計画を阻止するために、「みんなでストップ！負担増」署名に取り組んでいます。

75歳以上の患者窓口負担の原則1割から2割への引き上げなどの制度改悪が実施されれば、高い窓口負担を理由に受診抑制が進みかねません。

患者さんにも政府の狙いを知らせ、負担増計画を中止させましょう。

署名の注文などは TEL078-393-1807 まで

